

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	川内市立 川内小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	60	60	57	53	56	52	0	338	

研究の概要

1 研究主題

子供一人一人が生き生きと基礎・基本を身に付けていく算数科学習のあり方

2 研究内容と研究方法

(1) 実施学年・教科

全学年

- 各学年の発達特性に応じた学習指導法を工夫・改善し、子供たちが算数科における基礎・基本を確実に身につけるようにするため
研究授業は、第1・6学年で実施
第1学年では、習熟度別少人数学習指導の可能性を検証するため
第6学年では、習熟度別少人数学習指導の新たな指導方法を検証するため

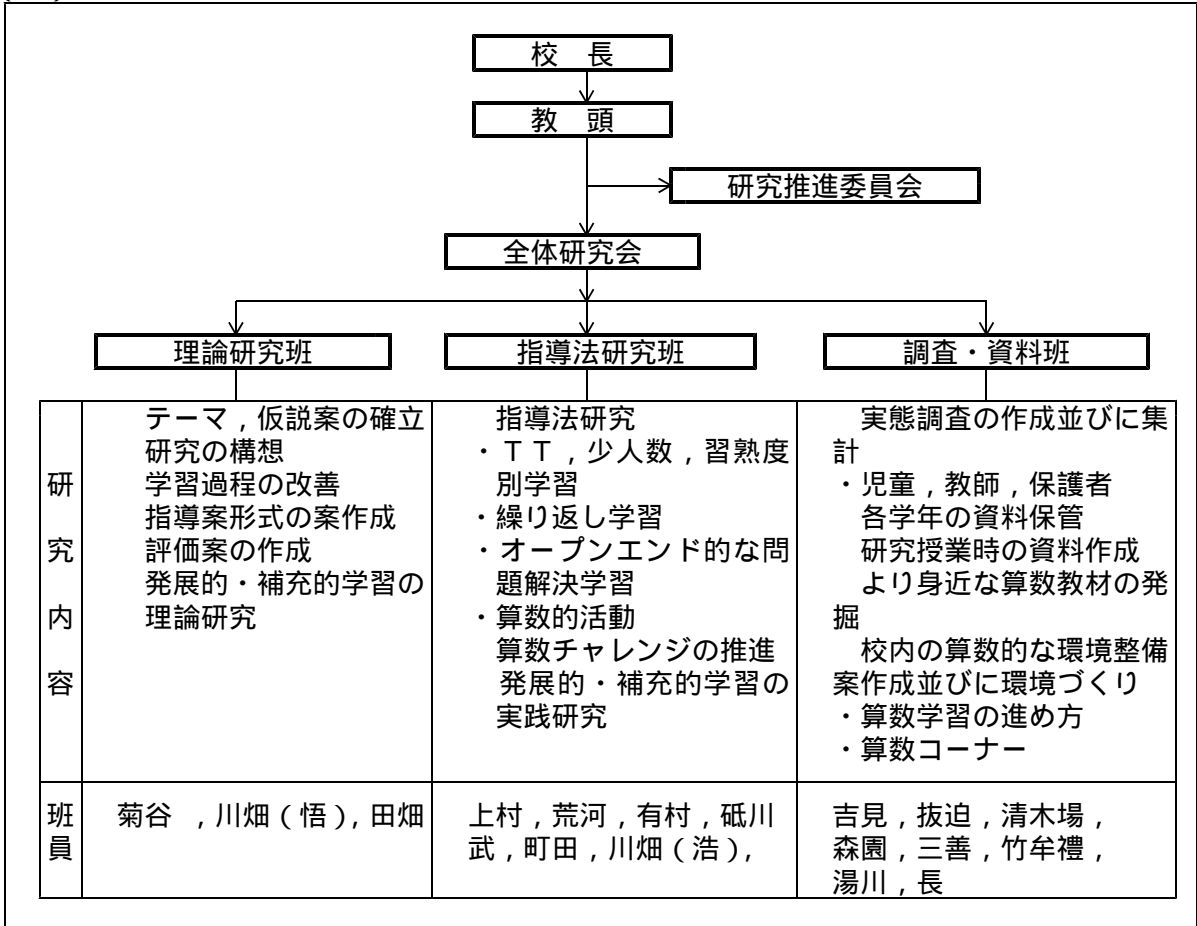
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 子供一人一人が生き生きと基礎・基本を身に付けていく算数科学習のあり方 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き生きと基礎・基本を身に付けていく子供の姿を明らかにするならば、より効果的な学習指導の工夫がされ、子供一人一人が生き生きと学習に取り組むのではないか。 算数科における基礎・基本を明確にしたうえで個に応じた指導と評価を行うならば、子供一人一人に確かな学力が身に付くのではないか。 学校と家庭が連携し子供の教育にあたるならば、家庭学習がより一層充実し、子供一人一人に確かな学力が身に付くのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 実態調査の工夫・改善と分析 算数科における基礎・基本の洗い出しと指導計画への位置付け(評価規準, 指導方法の明確化) 解決の「方法」や「結果」についての見通しのもたせ方の工夫・改善 子供たちが成就観や満足感が得られるような指導や評価の工夫 学習指導の工夫・改善 <ul style="list-style-type: none"> 発展的・補充的学習(学び合い) 自己・相互評価(できた, 分かった喜び) 教材開発 算数的学習環境の整備 家庭学習の手引きの作成と見直し
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 子供一人一人が生き生きと基礎・基本を身に付けていく算数科学習のあり方 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き生きと基礎・基本を身に付けていく子供の姿を明らかにするならば、より効果的な学習指導の工夫がされ、子供一人一人が生き生きと学習に取り組むのではないか。 算数科の基礎・基本を明確にしたうえで個に応じた指導と評価を行うならば、子供一人一人に確かな学力が身に付くのではないか。 学校と家庭が連携し合い子供の教育にあたるならば、家庭学習がより一層充実し、子供一人一人に確かな学力が身に付くのではないか。
--------	---

	<p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 実態調査の分析と子供の変容の確認</p> <p>(2) 発展的・補充的学習の実践研究の積み重ね</p> <p>(3) 評価研究</p> <p>(4) 家庭学習の手引きの活用状況把握と改善</p> <p>(5) 研究のまとめ</p>
--	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

< 図1 , 2 , 3 から >

成 果
<p>1 平成14年においても84%の子供たちが算数科の学習が好きと答えていた。15年度は，大きくは変化していないものの，大好きと答えている児童が2%増えている</p> <p>2 嫌いと答えた子供が4%から2%に減少している。</p> <p>3 算数が好きな理由の中に，発展的学習のよさ，習熟度別学習のよさ，指導方法のよさが子供たちの声として多数あがってきている。</p> <p>4 できる喜び，分かる喜びを感じている子供も多い。</p>

図 1

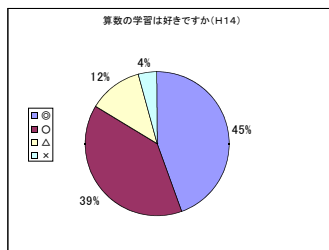


図 2

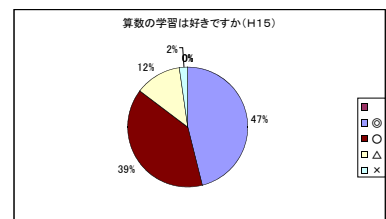
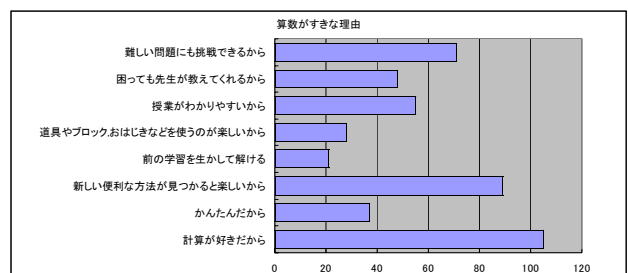


図 3



< 図4, 5から >

成 果
1 94%の子供たちが算数科の力が ついたと自ら感じていることが分 かる。 (平成15年度から調査項目に追加) 2 算数の力がついた理由として、算 数チャレンジ、少人数学習、指導方 法の工夫をあげている子が多い。 3 自分のがんばりを自覚している子 も多い。

図4

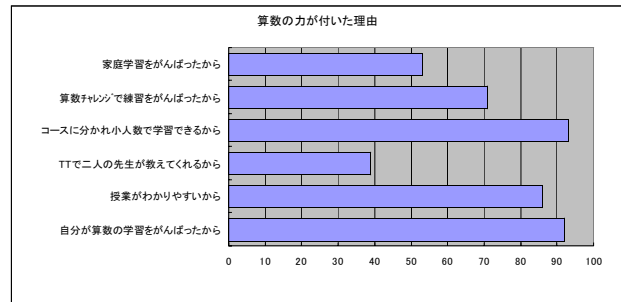
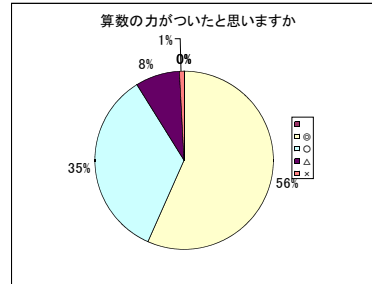


図5



< 図6, 7から >

成 果
1 算数学習の進め方を共通理解し、 実践してきたところ、子供たちも見 通しをもって学習を進められるよう になった。 2 79%の子供たちが、問題解決へ の見通しをもって追究している。

図6

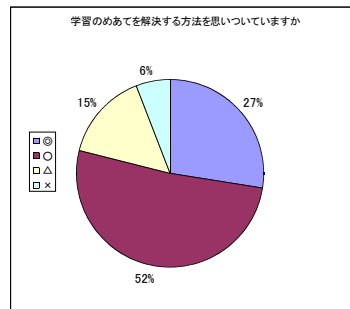
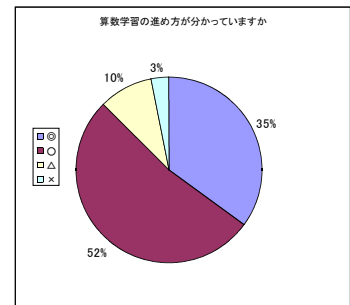


図7



< 図8から >

成 果
1 子供一人一人に十分な声かけを行 ってきたことで、94%の子が最後 まであきらめずに取り組む子と答え た。

図8

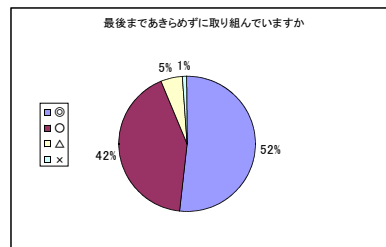
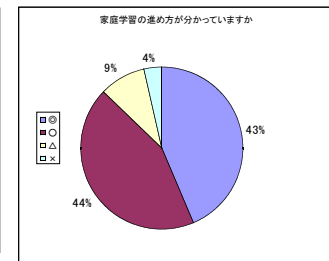


図9



< 図9から >

成 果
1 これまでの様々な手立てから家庭 学習の方法が分かり、充実した学び ができてきている。

2 今後の課題

発展的・補充的学習の工夫、改善を行い、各学年に応じた位置づけを行う。
 児童に確かな力を付けるための効果的な指導と形態の工夫・改善を行う。
 児童に確かな力を付けるための算数チャレンジの推進と見届けを行う。
 家庭学習の充実を図るための手引きの見直しを行う。

学力等把握のための学校としての取組

<p>児童へのアンケート調査（４月，１２月に実施）</p> <p>目的...児童の算数科に対する実態を把握し，授業改善に生かすために実施</p> <p>実施内容...算数科に対する興味・関心，学習への取り組み状況，学習形態等についてを総合的に調査</p> <p>保護者へのアンケート調査（１２月に実施）</p> <p>目的...学習の手引きの活用状況や習熟度別少人数学習指導に対する実態を把握し，工夫・改善していくために実施</p> <p>実施内容...記述方式によるアンケート調査</p> <p>CRT学力検査（１月）</p> <p>目的...全国平均との比較による本校児童の基礎学力の定着の状況を調査し，指導の工夫・改善に生かしていく。（年間指導計画での重点化）</p> <p>計算チャレンジの集計（毎月）</p> <p>目的...個々の伸びを継続的に把握することで，今後の指導に生かしていくために実施</p> <p>実施内容...３分間における計算力の調査</p> <p>県が基礎学力調査の実施と分析（１１月）</p> <p>目的...県の実施した基礎学力調査の問題を本校児童も実施し，その結果を比較・分析することで，本校児童の学力の定着の状況をよりの確に把握し，今後の指導に生かしていくため</p> <p>実施内容...県の基礎学力調査テスト（４・６年で実施）</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>研究公開予定</p> <p>公開日...平成16年11月10日（水）</p> <p>会場...川内市立川内小学校</p> <p>対象...全保・幼・小・中学校職員</p> <p>目的...研究の成果を発信すると共に，意見や助言等をいただくことで研究をさらに深めていく</p> <p>研究成果普及のためのホームページ作成</p>
--

◇ 次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】			有	無